

## 令和 2 年度事業報告

昨年度はまさにコロナに振り回された一年となりました。私たちやっちく会のスタッフも感染の恐怖と不安に苛まれながらも、利用者様の「豊かなくらし」を守る務めを果たすために、エッセンシャルワーカーとしての誇りと責任を持って、常に高い緊張感の中で試行錯誤を繰り返してまいりました。

制度は、「感染症や災害への対応力の強化」「地域包括ケアシステムの推進」に加え、「自立支援・重度化防止への取り組みの推進」「介護人材の確保・介護現場の革新」や「制度の安定性・持続可能性の確保」などがあげられており、法人・施設における安定した経営体制の確立や強化、ケアの質の向上がより強く求められている。

以上のような状況の中、入所系事業所全般においては、利用者の高齢化及び重度化により入院等が多く発生する事となりました。入所待機者への働きかけについては、このようなコロナ禍の中で十分に行うことが出来なかったこともあり、欠員状態を長期間作ってしまい、その結果大幅な減収となってしまいました。短期入所生活介護事業についても、感染等の蔓延等を考慮し、利用者確保及び受け入れ態勢の方策が整わず稼働率が減少傾向にありました。

通所介護事業・居宅介護支援事業も少なくともコロナの影響もあり微減傾向となりました。

児童福祉事業に関しても、少子化に伴い利用率が昨年度よりも減少傾向にありました。今後の取り組みとして、SNS の利活用も視野に入れながら既存ホームページをさらに魅力的なものにするなど検討し、送迎バスの活用もフルに行い園児の確保に努めなければなりません。志布志市から受託後 6 年が経過し、社会福祉法人の役割と責務についても再度自覚し、より地域に根差した保育事業が展開できるようにさらに推し進めていく必要があると考えます。

また利用者の確保のみならず職員の確保は、やっちく会の安定的な運営を考えるとときに避ける事の出来ない課題と考えます。

職員確保への取り組み・法人 PR としては、既存のホームページの活用、さらに SNS の活用まで踏み込んだより積極的な方策の展開が必要と考えます。外国人雇用についても前向きに検討する必要があると考えます。

制度が変わり法律が改正されても、私たち社会福祉法人がこの地域になくてはならない存在であり続けるためには、これまで以上に公益的な取り組みの実施、地域に根差した地道な取り組みや活動が必要になってくると思われます。今後も各事業所で、やっちく会の一員としての自覚を強く持ち、多様化するニーズに柔軟に対応し、利用者視点に立ったサービスが行えるよう研鑽を重ね、情報の共有を図る必要があります。

新型コロナウイルス問題に関しましても、ワクチン接種に一筋の光が見えたとしても、まだまだ感染拡大に警戒が必要と思われます。コロナ禍の中ではありますが、今後も利用者様に生きがいを持って生活していただけるよう支援していかねばなりません。地域福祉推進の中核団体であることを強く自覚し、職員一体となって事業運営に邁進していきたいと考えます。